

不登校児童生徒の学習機会確保及び 学校内別室への支援員派遣事業報告書



NPO法人 子どもの権利オンブズパーソンながさき



令和3年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

はじめに

2019 年、2020 年と連続で申請させていただいて、3 度目にして初めて内定をいただきました。額は大きいが通ると大変と聞いていた WAM 助成。大変でした。

事業内容についてはこの後を読んでいただければ幸いですが、事業に取り組んで一番良かったと感じているのは、この事業をきっかけとして様々な人たち、団体と関わることができたことです。

個人的な話になりますが、私は人や団体と繋がり始めることがとても苦手です。何のきっかけもない中で話しかけたり、「一緒に何かしませんか？」などとはとても言えません。でも心の中では、「話してみたいな」「どんな活動しているか知りたいな」などと思い、少し遠くから、陰からこっそりと眺め、あわよくば相手の方から話しかけてくれないかな、と淡い期待を持っています。

今回助成をいただき、申請時から始まり内定後、実施する中で、本当に多くの出会いがありました。初めての方もいれば、名前は知っていたけど話したことがなかった方、これまでも関係のあった方など本当に様々な方々とこの事業をきっかけとして一緒に取り組むことができました。その関係をこれからも大切にして、活動を継続していきたいと思っています。本当にありがとうございました。

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

代表理事 古豊 慶彦

※ページ数の関係で事業報告会についての掲載ができていません。当事業の事業報告会は 2022 年 3 月 6 日(日)に撮影し、3 月 17 日から Youtube にて公開しています。下記 QR コードからご覧いただけます。公開は 2022 年 4 月末日までを予定しており、その後については未定です。お早めにご覧ください。

part1

「学校内別室支援員等研修事業」について→



part2

「学校内別室への支援員派遣事業」について→



part3

「不登校の子どもたちの学習機会確保に向けた調査事業」について→



当団体について

私たちは子どもに関する相談支援事業を行うとともに、子どもの権利条約の周知、子どもに関する制度や施策への提言などを行い、子どものいのちと権利が大切にされ、子どもが安心して SOS を発信することができる社会の実現に寄与することを目的して活動しています。

主な活動

個別救済…毎週 3 日相談窓口を開所し、子どもに関する相談を受けつける。特定の子どもの権利侵害等の解消を目指し、相談支援や関係調整を行う。

制度改善…個別救済の他調査等によって子どもに関する社会的課題等を明確化し、制度等によって課題解消されるよう関係機関等にはたらきかける。

子どもの権利オンブズパーソンながさき とは…



I 不登校児童生徒の学習機会確保及び学校内別室への支援員派遣事業 概要

1) 目的

①不登校児童生徒の学習機会確保

学校外の学習機会確保の必要性和課題を明らかにし、不登校児童生徒が不登校期間でも学校の授業に遅れることなく学習できる機会の創出と民間施設等との連携促進を目的に、長崎県の不登校支援を行う民間施設等への訪問調査を行う事業

②学校内別室への支援員派遣

様々な理由により別室利用を必要とする生徒が安定して別室利用できることを目的に、学校内別室へ支援員を派遣し子どもにも学校にも負担の少ない別室利用の促進を図る事業

2) 事業に取り組む背景

令和元年度の長崎県の不登校児童生徒数は2163人で前年度より250人増加(長崎県の調査より)となっている。長崎市教育委員会によれば、集団への不適応等から教室ではなく学校内の別室を利用する子どもが一定数いるが、教職員の多忙や人員不足も伴って別室での対応ができず、結果として不登校(欠席が年間30日以上)となってしまうケースもあり、それも近年の不登校児童生徒数増加の要因のひとつであると考えられるという。当団体の2019年度の新規相談でも、相談主訴が不登校であるケースが41%を占めるなど、不登校のことで悩む子どもや家庭は多い。

また2020年度は初めて第1回子どもアンケートを実施。長崎市中心部の路上で18歳以下の子どもを対象にアンケートを行った(回答者209名)。「いま困っていることはありますか?」という質問の回答では「勉強のこと」を84名(41%)が、「将来のこと」を58名(29%)が選んだ。このように子どもたちにとって勉強や将来は自身の困りごとや悩みごとと密接な関係にある。

不登校の子どもとの面談では授業に出て先生も言っていることがわからない、不登校期間があると勉強についていけるかが不安、別室利用については別室では主に自習であり学習の不安が解消されにくい、別室を担当できる先生が確保できないなどの理由で別室利用が叶わないという声があり、不登校の子どもたちの学習機会確保や学校内別室利用の充実が当団体としても取り組むべき課題だと認識している。

3) 事業実施体制

運営事務局:事務局長…古豊慶彦(代表理事) 会計…中村結花(理事)

事務局…居村弘子(理事)・古豊史子(理事)・森田知美(理事)・安達和美(理事)

伴走支援者:広木克行さん(神戸大学名誉教授) ※専門は臨床教育学、教育制度論

外部評価団体:認定NPO法人アカツキ様(福岡県) ※NPOを対象とした伴走型コンサルティング等



Ⅱ 「学校内別室支援員等研修事業」

1) 目的

当事業の周知、支援員になってくれる方の募集とあわせて、いくつかのテーマに関心のある方々と一緒に学ぶ機会を目的とした。

2) 内容

別室へ派遣する支援員は様々な研修機会が必要だと考え、全4回に渡る研修を実施。当団体理事の他、当研修会を受けて頂いた方の中から支援員になってみたいという希望者に支援員をお願いした。

支援員には子どもに関わる責任が伴ってくるため派遣に関しては慎重に行う必要があり、事業年度前半は研修に充てた。支援員希望以外の参加者は各研修テーマ個別での参加も可能となるよう研修計画を立てた。

3) 実施スケジュール

日にち	実施内容
4月20日(火)	【全事業共通】長崎市教育委員会と事業について打ち合わせ
4月28日(水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング 0 回目:顔合わせメイン
5月28日(金)	【研修 4 回目講師】NPO 法人子どもの人権アクション長崎様研修会についての打ち合わせ(オンライン)
5月29日(土)	【研修 2 回目講師】牟田万希子様研修会についての打ち合わせ(オンライン)
6月2日(水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング 1 回目:研修会開催についての打ち合わせ
6月18日(金)	【研修 3 回目講師】菅達也様研修会についての打ち合わせ(対面)
6月23日(水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 1 回目:事業全体の確認等
7月1日(木)	研修会申込受付開始
7月31日(土)	連続研修会 1 回目:「学校現場の現状と長崎市における不登校支援について」 講師:長崎市教育委員会 「今回の事業についての説明」 NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき 古豊 慶彦
8月1日(日)	連続研修会 2 回目:「不登校支援について～不登校経験者に学ぶ～」 講師:牟田 万希子 さん
8月21日(土)	連続研修会 3 回目:「発達障がい等困難を抱える子どもへの支援について」 講師:菅 達也 さん
8月25日(水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング 2 回目:支援員のお願いについて
9月4日(土)	連続研修会4回目:「子どもの権利とマインドフルネス～よき支援者でいるために～」 講師:入江 詩子 さん

4) 実施内容

実施については事前申し込みを必須とし、「会場での対面」「会場の様子を ZOOMを使用しライブ配信」「録画した動画を参加者のみに Youtube で限定公開(期間限定)」の3つの方法で参加ができるように設定した。また、全ての回において Google フォームを使用してアンケートを実施した。

①「学校現場の現状と長崎市における不登校支援について」

講師：長崎市教育委員会

「今回の事業についての説明」

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

古豊 慶彦

開催日時：2021 年 7 月 31 日（土）14:00～16:00

開催場所：長崎県勤労福祉会館（〒850-0031 長崎県長崎市桜町9-6）

申込者：87 名／来場者：6 名／ライブ視聴者：33 名／

YouTube 再生回数：180 回

内容：「不登校の現状と支援について」というテーマでお話ししていただきました。スライドを使用しながら“不登校とは”“不登校支援の在り方”“不登校支援にあたって”と、基礎的な部分から、不登校児童生徒の支援施策の変遷や、新学習指導要領を用いて、とても分かりやすい研修でした。

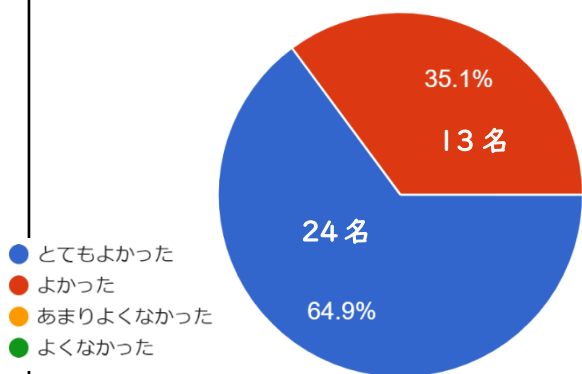
感想アンケート：アンケート回答 37 名

・質問1 内容はいかがでしたか

（4 項目から 1 つを選択※必須）

内容はいかがでしたか

37 件の回答

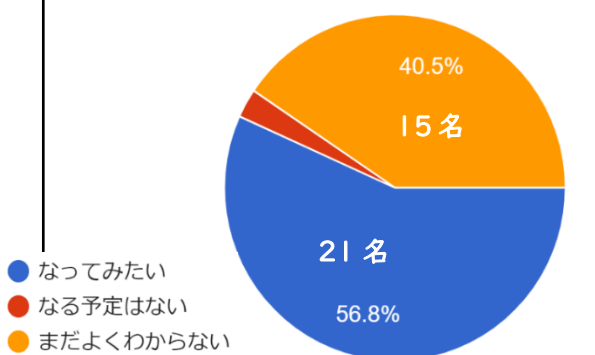


・質問3 支援員になってみたいですか

（3 項目から 1 つを選択※必須）

あらためて支援員になってみたいですか

37 件の回答



不登校児童生徒の在り方について（通知）

不登校という状況が継続し、結果として十分な支援が受けられない状況が継続することは、自己肯定感の低下を招くなど、本人の進路や社会的自立のために望ましいことではない

不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在すること

当日資料の一部

不登校児童生徒を支援する施策の変遷

不登校施策における変革期

不登校に関する考え方の転換
社会的な自立に向けた支援
休むことの意義

不登校児童生徒への支援について初めて体系的に定めた法律が成立

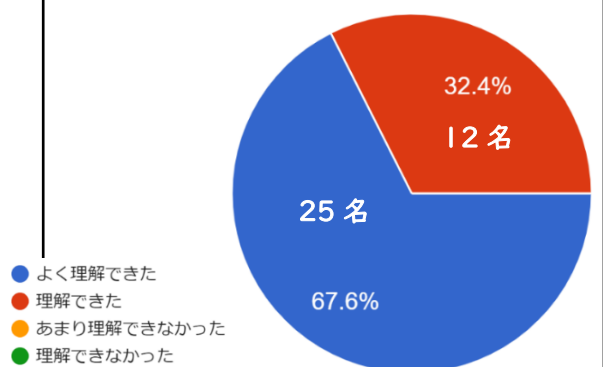
通知 不登校児童生徒の支援の在り方について
義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律
通知 不登校児童生徒による学校以外の場での学習等に対する支援の充実について
義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律
通知 不登校児童生徒の支援に関する最終報告
一人一人の多様な課題に対応した切れ目ない組織的な支援の推進

・質問2 今事業についての理解

（4 項目から 1 つを選択※必須）

今事業についての理解

37 件の回答



・質問4 受講して感じたことなどをご記入ください

（37 名中 31 回答※自由回答）

※一部抜粋して掲載します。

別室登校の子供たちのために、このような試みがされることはとてもいいことだと思います。多くの学校の別室登校の子供たちは、学校や担任にあまりかまってもらえなくて、結果、心のエネルギーも貯めることができないまま、卒業していく場合が多いように感じていたので、この活動に大賛成です。

わかりやすくお話しいただき、とても勉強になりました。実は、子どもが不登校の経験があります。現在は大学に進学し、自分の夢に向かって頑張っています。不登校当時は、ほんとに親子ともにつらい毎日でした。助けていただいた方もたくさんいますが、辛い言葉もたくさん言われてきました。今日のお話を聞いて、こういう形や方法で子供たちに接して下さる方がいることに感動して涙が止まりませんでした。



不登校の現状と支援について、歴史やデータ・現場の生の声から深く理解する事ができました。有意義な研修会をありがとうございます。

大人が何気なく子どもたちにかかる言葉がプレッシャー、登校刺激になっているというところが一番心に残りました。実際、我が子にも「1時間だけ」と約束して送り出しながら、先生の勧めで「給食まで」と何度伸ばしたことか…可哀想なことをしたんだと痛感しました。学校に行っていないなくても土日や長期休業は解放された時間であることも合わせて、なるほどと思いました。

不登校の子どもたちが増え、またその背景も多様化、複雑化するなかで、子どもたちを枠にはめるのではなく、柔軟な支援がさらに求められると改めて思いました。不登校の子どもたちにとって、必ずしも自宅が安心できる場所ではないと思うし、学校に行くことを願う子どもたちもいると思います。そんな子どもたちが安心して過ごせる場所や環境が大事になるように感じました。

今回の事業について、丁寧にご説明いただき、分かりやすかったと思います。残念なのが、対象が長崎市内の1～2校ということですが、まだ試験的な取り組みということで仕方ないかなとも思います。離島に住んでいると、受けたくても受けることが難しい研修も多いので、今回、Zoomでの配信は、大変ありがたかったです。

②「不登校支援について～不登校経験者に学ぶ～」

講師：牟田 万希子さん

開催日時：2021年8月1日(日)14:00～16:00

開催場所：長崎県教育文化会館(〒850-0052 長崎県長崎市筑後町2-1)

申込者：89名／来場者：3名／ライブ視聴者：22名
／YouTube再生回数：138回

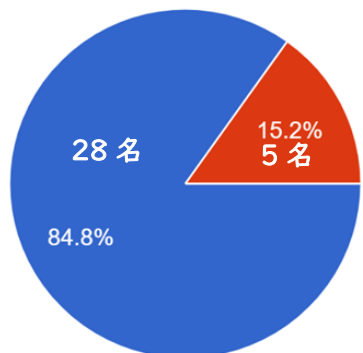
内容：「不登校支援について～不登校経験者の話～」と

いうテーマでお話しいただきました。牟田さんは中学校で不登校の経験があり、現在、地元長崎の大学で教育などについて学んでいます。スライドを使用しながら、「中学校での不登校の経験」「学校に行かなくなっからの様子や気持ち」「変化の要因-支援のヒントになるかも-」「どんな大人に心を救われたか」など、ご自身の経験をはじめ、その当時の様子についてお話してくれました。研修中、何度かWork(参加者への質問)を交えながら、一緒に考える機会を作っていただきました。

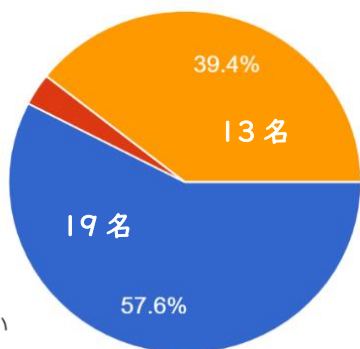


・質問1 内容はいかがでしたか
(4項目から1つを選択※必須)

- とてもよかった
- よかった
- あまりよくなかった
- よくなかった



- なってみたい
- なる予定はない
- まだよくわからない



別室がもつ役割が教室登校に繋げるものではなく、というお話に共感しました。別室ではないのですが、保健室登校しても教室に連れていかれる恐怖で我が子は行けなくなりました。別室が予備的な部屋になることなく、

- どう思われているか、とても気になる
(親や姉妹などの家族、友達、
先生、近所の人など)
- 学校に行かない自分は悪い
- なぜ行けないのか、わからない
- 生きていても良いのかな…

学校に行くハードルとして、
何が考えられるか

- ・ジャッジをしない人
- ・ただ自分の話を聴いてくれた人
- ・アドバイスをしたり、指導的な立場からものを言わない人
- ・しっかり向き合い、正直にフラットに接してくれる人
- ・温かく見守り、待ってくれた人

底にいる時は、たしかに何も響かないし伝わらない。そっと見守って傷が癒え、空っぽになった状態からだんだんとエネルギーがしみだしてくるのを待つしかない。今日のお話は、そこから少し進んだ時点で、当事者にどんな支援がはまったのか、とてもわかりやすく体験を聞かせてくださった。

オンライン開催 学校内養育室への支援員派遣事業

支援員養成進修研修会 (金4日)

7/31^(土)

開講時間はいずれも 14～16 時

8/1^(日)

- 学校現場の現状と
講師市：長崎市の不登校支援について
講師市：長崎市教育委員会

● 今回の事業についての説明

NPO法人
子どもの権利オンラインサロンがさき
代表理事 吉原 達彦

● 発達障がい等 困難を抱える子どもへの支援について

講師市：香 達也 さん
講師市：長崎大学現代社会学部
社会福祉学特別別選修数科コース准教授

● 子どもの権利とマインドフルネス ～きき支援者としてのために～

講師市：入江 詩子 さん
NPO法人子ども的人権アソシエーション長崎代表

(内容)

発達障がいの不登校の経験者、学校に馴染むことができないときとの
経験者の語り、どんな場面にどのような役割をもちたいのかと
お話ししていきます。後、発達障がいの子どもが育つた
ように子どもといふ。

(内容)

きき支援者とは、どんな人々をきくというし、きくとい
ふことってなんですか？ 人は、自分を感じて、自己
肯定をしながら生きています。

(内容)

この研修では、自己肯定感や自己受容のワークを通して、自分
の強みや個性を認め、自分らしくありたいと望む人々を自分
生活に受け入れるためのワークを学びます。

(内容)

発達障がいの子どものある方たちには、自分の力でできる
ことを自分でやる(自己肯定)することがとても大切で、困
りのときの支えとなるように。

このようにすれば子どもと生活するのにも一つに考えたい
ようにしていきます。

隔年の不登校支援において別業種では、不登校の子どもたちには学校と繋がり続ける貴重な場となり
ていくことを考えられます。

子どもと発達障がいの支援者を支援し、教室外で子どもが行動の軌道と軌道と見守りながら、学校のサポートを
、長崎市教育委員会との連携により進め、発達する児童も同時に進みます。また、支援には
ならないが子どもと関わるという方も多く参加し、学びました。

※ZOOMにて参加します。研修費目金に書いただけですが、後日研修を録画した動画を視聴できます
ので、当日の欠席が気になる方もお申込みください。

参加費：全席 2,000 円 (1 回のみ 1,000 円)

申し込み：住所・年齢・申込番号を下記に返信。

詳細については下記お問い合わせください。メール勿

NPO法人
子どもの権利
ガッパ(日本ガッパ)

長崎県教育委員会 長崎県教育委員会 長崎県教育委員会

居心地良いその子の本当の居場所になったら良いなと思いました。すぐには難しいのですが、別室支援員として子どもたちに関わってみたいな、と思いました。

work①～④を通して研修会参加者の意見や感想を聞くことができ、関心の高さや熱心さを実感できた。講師の方からの勇気ある生の声はダイレクトに心に響いた。

③「発達障がい等困難を抱える子どもへの支援について」

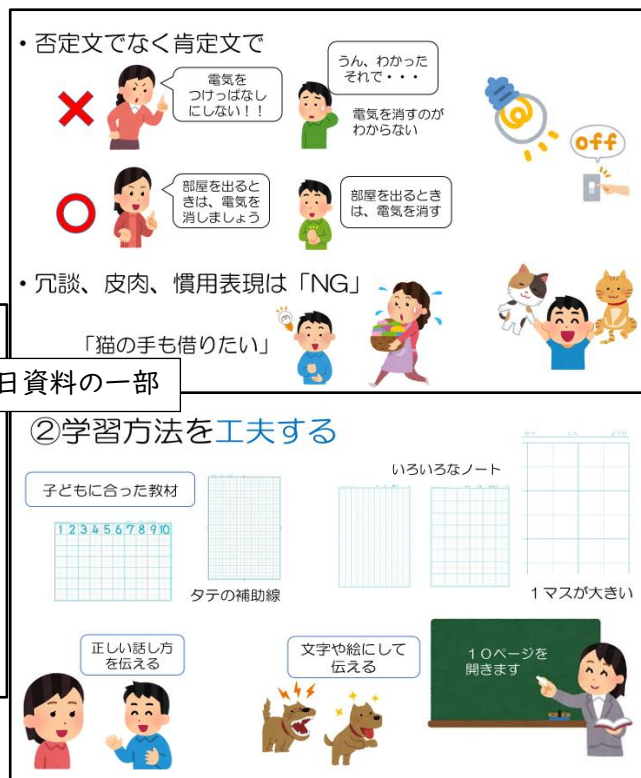
講師：菅 達也さん（鎮西学院大学現代社会学部 社会福祉学科特別支援教育コース准教授）

開催日時：2021 年8月21日（土）14:00～16:00

開催場所：長崎県勤労福祉会館（〒850-0031 長崎県長崎市桜町9-6）

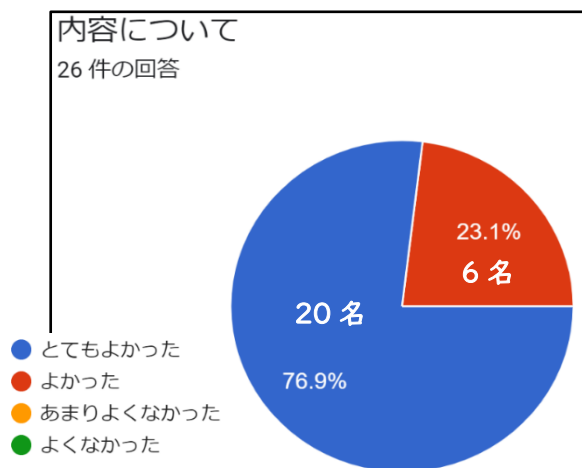
申込者：88名／来場者：3名／ライブ視聴者：18名／YouTube 再生回数：146回

内容：「発達障がい等困難を抱える子どもへの支援について」というテーマでお話しいただきました。スライドを使用しながら、「不登校について」「発達障害とは」と、様々な事例、取り組みを交えながら基礎、そしてより踏み込んだ支援についてわかりやすくお話しいただきました。資料もとてもわかりやすく、参加者からは「今後も使っていただける資料をありがとうございます」というような感想も寄せられました。

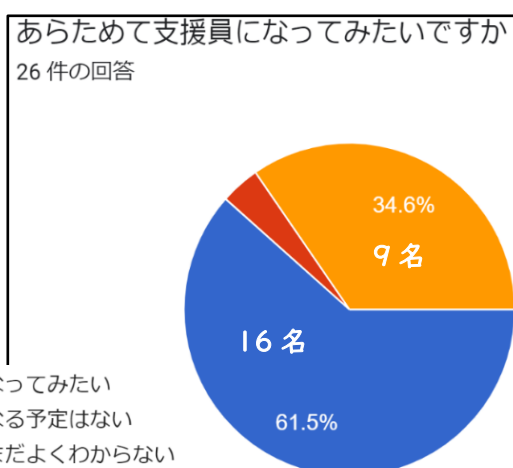


感想アンケート：アンケート回答26名

・質問1 内容はいかがでしたか
(4項目から1つを選択※必須)



・質問2 支援員になってみたいですか
(3項目から1つを選択※必須)



・質問3 受講して感じたことなどをご記入ください(26名中25回答※自由回答)

※一部抜粋して掲載します。

菅先生のお話を聞いて、これまで出会ってきた様々な発達障害を持った子供たちの顔や特徴や性格が当てはまり、思い出されました。ひとつひとつの事例説明を聞くことで、対応の仕方を振り返り、これからの支援に生かしたいと思いました。

発達障害についての概論、発達障害から不登校に発展した場合の対応、小中高大学へとつなげる支援の実際、と3つを約1時間半で網羅され、すごい!と感動しました。本来なら、それなりの機関で1年かけて教えてもらえるぐらいの専門領域だと思います。すばらしかったです。わかりやすいお話と資料をご提供いただき、ありがとうございました。

菅先生のお話、とてもわかりやすかったです。カームダウン部屋が空港にあるというのは本当にびっくりしました。支援が必要な人のための施設に狭い部屋があったりするので漠然と「狭い所が好きなのかな」とだけ思っていました。こういう風に対応するといいいのではというヒントがいろいろ散りばめられててあっという間に時間が過ぎていきました。

自閉スペクトラム症、学習障害、ADHD それぞれの定義から説明していただき、大変勉強になりました。また具体的な対応も、子供の個性も関係すると思いますが、方向性を指し示していただき、参考になりました。「発達障害の子供にわかりやすいものは、全ての子供にわかりやすい」は、普段から感じるのですが、その通りだと思います。

④「子どもの権利とマインドフルネス～よき支援者でいるために～」

講師: 入江 詩子さん

(NPO 法人子どもの人権アクション長崎代表)

開催日時: 2021 年9月4日(土) 14:00~16:00

開催場所: 長崎県教育文化会館(〒850-0052 長崎県長崎市筑後町2-1)

申込者: 86名 / 来場者: 4名 /

ライブ視聴者: 18名 / YouTube 再生回数: 101 回

内容: 「子どもの権利とマインドフルネス～よき支援者でいるために～」というテーマでお話いただきました。スライドを使用しながら、「過度のストレスがカラダに与える影響」「マインドフルネスの動向」など、実践を交えながらお話いただきました。



マインドフルネスは
扁桃体の働きを適正
化し、自律神経のバ
ランスを整える

当日資料の一部

マインドフルネスの効果

後帯状皮質を鎮静化させる
→ 思い込みや思考のとりわれがなくなり落ち着く
脳の可塑性をサポートする
→ 脳の老化を遅らせる
扁桃体の働きを適正化させる
→ 闘争・逃走反応が起きにくくなる
灰白質が増える
→ 記憶・自己認識・ストレス・共感などに関する
部位が活性化する
大脳皮質が厚くなり前頭前皮質を活性化
→ 思いやりや共感、優しさを感じやすくなる

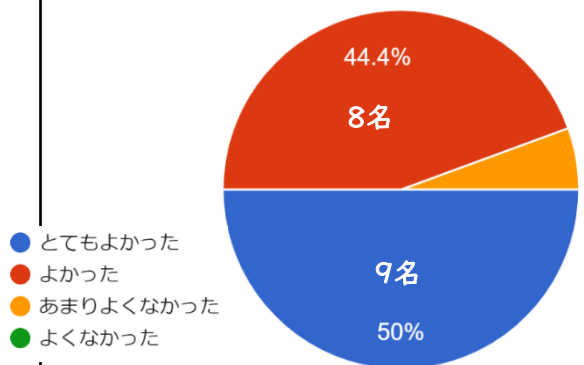


感想アンケート:アンケート回答18名

・質問1 内容はいかがでしたか
(4項目から1つを選択※必須)

内容について

18件の回答



- とてもよかった
- よかった
- あまりよくなかった
- よくなかった

・質問2 受講して感じたことなどをご記入ください(18名中18回答※自由回答)

※一部抜粋して掲載します。

※この研修後に支援員の募集を行ったため、「支援員になってみたいですか」という質問は無し

脳に働きかけるというのは、傷ついた子どもの支援にかなり有効だと思います。支援者のメンタルの安定にも役立ちます。

とても充実した内容の講義で、勉強になりました。前々から耳にしていたマインドフルネスを具体的に学ぶことができ、また実践することでもできて嬉しかったです。1日に一回でも、続けようと思います。

今回は私にとって
内容が難しく感じ

じ、不登校支援とどのように結びつくのかな?と思いながら見ていました。動画終盤の「対人援助において、自己管理が大切でありその為のマインドフルネス。自分をたいせつにし、他者を傷つけない」という言葉で、対人援助の基本の話だ、ストレスを解放することで安心感を持ちセルフケアをしていくことは、大人も子供もストレスフルな今を生きていくのに必要なことだと思いました。



5) 学校内別室支援員等研修事業をふり返って

参加者に合わせた形式での実施

今回の連続研修会は対面・ZOOMによるライブ配信・Youtubeでの動画視聴という3つの方法で参加ができる形式で実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、このような実施に至りましたが、結果的に私たちの想定をはるかに超えるお申込みをいただきました。また実施方法や、広報・周知を連携団体をお願いした影響、新聞への記事掲載などの要因で、実際に子どもに関わる様々な職種の方々、親の方、NPOなどの団体で活動されている方々など、多様な属性の参加がありました。

当事業広がり期待したり、支援員として関わってみたいという声

支援員の別室派遣事業に関して、「長崎市の1~2校での実施は残念です」「他市での実施はないのですか」といった感想が多くありました。また、「支援員として関わってみたいが市外在住なので叶わない」というような感想もありました。今回の研修会の実施により、支援員の必要性を感じられた方が多かったのだと思います。参加者の方の中から同様の事業に取り組まれていく可能性を感じました。

研修会終了後、6名の方に支援員をお願いした

支援員の募集に対して14名の方々からお申込みをいただきました。そこから書類選考、面接を経て、6名の方にお願いをしました。



Ⅲ 「学校内別室への支援員派遣事業」

1) 目的

別室利用を必要とする子どもがいる長崎市立の小・中学校へ支援員を派遣し、別室利用の促進と別室対応による教職員の負担の軽減を目的とした。

2) 内容

派遣先として長崎市立の小・中学校のうち各 1 校ずつを実践校として長崎市教育委員会に調整していただいた。支援員は学校内別室に待機し、利用する子どもと一緒に過ごし、終了後にその日に行った事柄を記録し学校へ提出。

次年度以降に繋げるために、事業終了前に各学校へ支援員派遣の効果を尋ねるアンケートを実施した。

支援員は当団体の理事 2 名の他、当事業において臨時雇用させていただいた 6 名で実施した。

3) 実施スケジュール

日にち	実施内容
4 月 20 日 (火)	【全事業共通】長崎市教育委員会と事業について打ち合わせ
4 月 28 日 (水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング 0 回目: 顔合わせメイン
6 月 23 日 (水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 1 回目: 事業全体の確認等
8 月 25 日 (水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング 2 回目: 支援員のお願いについて
9 月 4 日 (土)	支援員申込受付開始
9 月 24 日 (金)	長崎市教育委員会担当者と実践校へ出向き事業についてお話をさせていただく
9 月 26 日 (日)	支援員申込者面接日
9 月 28 日 (火)	実践先中学校見学
9 月 29 日 (水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 2 回目: 支援員派遣についての現状報告・今後の確認等
10 月 4 日 (月)	適応指導教室見学
10 月 5 日 (火)	実践先小学校見学
10 月 6 日 (水)	実践先中学校でスクールカウンセラーとお話をさせていただく
10 月 7 日 (木)	中学校担当支援員ミーティング (オンライン) 0 回目: 支援員顔合わせ
10 月 9 日 (土)	小学校担当支援員ミーティング (オンライン) 0 回目: 支援員顔合わせ
10 月 12 日 (火)	小学校で初実践
10 月 15 日 (金)	中学校で初実践
10 月実践日数	小学校: 4 日 (日にち→19・21・26・28) 中学校: 4 日 (日にち→15・18・22・29)
11 月 25 日 (木)	支援員ミーティング※各校ごと (オンライン) 1 回目: 実践の共有など
11 月実践日数	小学校: 8 日 (日にち→2・4・9・11・16・18・25・30) 中学校: 9 日 (日にち→1・5・8・12・15・19・22・26・29)
12 月 8 日 (水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 3 回目: 支援員派遣についての現状報告及び調査事業についての打ち合わせ
12 月 16 日 (木)	支援員ミーティング※各校ごと (オンライン) 2 回目: 実践の共有など
12 月 23 日 (木)	小学校担当支援員ミーティング 2.5 回目※希望者のみ (オンライン): フリートーク

12月実践日数	小学校:10日(日にち→2・6・7・9・13・14・16・20・21・23) 中学校:7日(日にち→3・6・10・13・17・20・24)
2022年 1月18日(火)	【全事業共通】長崎市教育委員会に今年度事業の簡単なご報告及び次年度申請についてご相談(現地)
1月19日(水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 4 回目:支援員派遣についての現状報告・今後の確認等
1月20日(木)	支援員ミーティング※各校ごと(オンライン)3回目:実践の共有など
1月27日(木)	北他機関地域包括支援センター様と打ち合わせ(オンライン):事業概要説明及び実践先中学校への見学について
1月実践日数	小学校:9日(日にち→11・13・17・18・20・24・25・27・31) 中学校:6日(日にち→14・17・21・24・28・31)
2月10日(木)	支援員ミーティング※各校ごと(オンライン)4回目:実践の共有など
2月16日(水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 5 回目:支援員派遣についての現状報告及び事業報告会についての打ち合わせ
2月17日(木)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング3回目:事業報告会打ち合わせ
2月25日(金)	北他機関地域包括支援センター様が実践先中学校へ見学
2月実践日数	小学校:12日(日にち→1・3・7・8・10・14・15・17・21・22・24・28) 中学校:7日(日にち→4・7・14・18・21・25・28)
3月23日(水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 6 回目:事業終了にあたってのまとめ※予定
3月24日(木)	支援員ミーティング※各校ごと(オンライン)5回目:事業のまとめ※予定
3月30日(水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング4回目:事業のふり返し、自己評価※予定
3月実践日数	小学校:8日(日にち→1・3・7・8・10・15・22※予定・24※予定) 中学校:5日(日にち→4・7・11・14・18)

4) 実施内容

①小学校(2021年10月～2022年3月)

実施体制:支援員5名で実施。研修会受講後支援員のお願いをさせていただいた3名他当団体理事2名

実施日時:毎週火・木曜日の8:30～12:30に各日支援員2名で対応。不定期で月曜日の同時間帯に支援員1名で対応。

実践日数:51日(予定日含む)

関わった児童数:延べ55名(3月3日まで)

実践概要

*支援員は学校へ着くと別室として利用できる部屋に待機し、利用する生徒を待つ。利用する生徒は“教室へ入りにくい生徒”“その日の調子や精神状態で授業から少しの時間抜ける生徒”が主。この学校の場合はよく利用する1名を中心に、その他数名がちらほらという感じ。

*利用がない日もあるが、その時になってみないとわからないので支援員は部屋で待機する。

*別室で過ごす時にはトランプやオセロなどのゲーム、手編みなどの小物作り、おしゃべり、ごくまれに学習をしている。

*他の予定で別室が使えない時には図書室などに移動して過ごす。

*その日の終わりに関わった生徒や何をして過ごしたかななどを日誌に記入し教頭先生へ提出。

支援員の感想

【小学校担当】

前期（初回～冬休み前）はお互いの初対面、更に私は支援員としての取り組み自体が初めてということで、児童も私も手探りであった。児童側はどこまで許してもらえるのか、私はどこまで踏み込んでも良いのかという点を中心に、会話や遊びの中で少しずつ距離感を探っていった。会話の内容も当たり障りのないものや児童の話に乗る形のものが多かった。遊びの内容も、トランプやごっこ遊びなど、接触が少なくお互いの距離をしっかりと取ることができる様なものが多かった。常に此方を伺っている様な視線があり、少し踏み込んだ問いかけをすると無視したり、態と乱雑な言動を見せてこちらの対応を観察したりといった場面もあった。

後期（冬休み明け～現在）はお互いの距離感が定まり、前期に比べて随分と打ち解けた雰囲気があった。私が身体を動かす遊びにも積極的に付き合うことを学習したようで、入る日は鬼ごっこやトランポリンのある部屋で走り回るなど、前期にはない接触が発生する様な遊びが多くなった。会話の内容も私生活や好きなものに関するものが増え、自分に関係の無い話も興味を持って聞いてくれるようになった。また、前期に比べて自分の好き嫌いを気軽に口にしてくれるようになり、自分のして欲しいことを訴える場面も増えた。基本1人との関わりだったが、時に複数名になることもあり、その際は前期にはあまり見られなかった「自分の方に構って」という訴えを含んだ言動が見られることもあった。後期終盤からは自ら時間を見て行動する姿が増えたり前期に比べて授業を受ける回数も増えたりするなど、良い変化が多く見られるようになった。

全体を通して、前期、児童との距離感を掴むための時間を経てお互い信頼を培えたことがとても良かったと思う。こちらを試している様に思えた言動に対して、曖昧な対応ではなく素直な感情を口にするように意識し、変に濁したり誤魔化したりはしないよう心がけた。その結果が後期の打ち解けた雰囲気に繋がっているのだろうと感じた。また、児童の話ポジティブな内容もネガティブな内容もまずはただ聞いて受け止め、批評する形ではなく興味からの質問を向けるようにしていたのも、後期の会話の内容の変化に繋がっているのだろうと思う。

今回支援員として活動する中で、やはり最初期の児童との距離感を掴む部分が重要だと感じた。そこにどれだけ時間をかけ、そのときにどれだけ関わる児童に興味を持てるかで、後の関係性が大きく変わる。今回は対象が基本1人だったこともあり特にトラブルもなく良い関係を築くことができたが、人数が増えたときに同じことができるか、どうするべきかは考えておくべきだと思う。教室に行けなくても居場所がある、自分を気にしてくれる人がいるという安心感が児童の中に残っていると嬉しい。

【小学校担当】

普段は学生として教育について学んでいますが、今年度の学校内別室における子どもたちとの関わりを通して、机上では学ぶことができない多くのことを学ばせていただいたように感じています。

子どもたちと関わるにあたって、正直、初めは緊張をしていました。「上手く」子どもたちと関わるができるのかという部分にばかり気を取られていたようにも思います。しかしながら、関わりを重ねるなかで、目の前にいる「〇〇さん」との関わりをたのしむことの大切さに気づかされました。そのような関わりを続けていくことで、徐々に距離が縮まっていることや、特に支援者であるわたし自身に、子どもたちに向ける眼差しや意識など変化があったように思います。

関わるなかで、子どもたちの言動に悩むことももちろんありました。でも、その度にミーティングやメールで情報共有をしながら、学校での支援をより良い時間にするためにみんなで考えることができて、心強かったです。

別室が子どもたちにとっての安心できる居場所となるために、来年度も活動していくことができればとわたし自身は望んでいます。

【小学校担当】

今回、この事業に参加させていただいたことを感謝しています。別の働きとして、不登校の児童・生徒や保護者との関わりがあるのですが、学校側から見える景色はどのようなものなのか、学校での子どもたちの様子はどのようなものなのか、子ども達を育む環境をよりよいものとするために学校とはどのような関わり方が出来るのか、などの思いを持っていたので、学校の中に身を置き、子ども達や先生方と接することができたことをありがたく思っています。

学校では様々な形で学びや活動があり、楽しそうに過ごしている多くの子どもたちの顔を見ることもできました。しかし、そのような中、ずっと集団の中にいるのは難しい子、ご家庭の事情やコロナ禍での理由、様々な要因から不安定になっている子など、一斉の場では対応しきれない子ども達の姿もありました。今回小学校での支援では、不登校に近い状況にある子の別室支援というよりも、先に示したような児童が一時避難のような形で過ごすということも多くありました。そのような児童の場合には、管理職や養護教諭の先生が先に対応されており、そこから引き継いで預かるという流れでしたが、短時間で集団に戻るのが困難な場合もありましたし、また、ほぼ毎回私たちと長時間過ごすという児童もいたため、今回のような支援員の配置は一定の役割を果たすのではないかと考えられました。また、子ども達が自分のペースで気持ちを整えたり、不安定さを抱えたままでも安心して過ごしたり出来る場があること、そして、時間的余裕をもって対応できるひとがいるということは、苦しさを感じている子どもたちにとっても助けになりうるのではと感じました。

子ども達は時に、他者への攻撃性のようなものや、人を試すかのような態度を見せることもありましたが、関わりを重ねる中でそれらの出現は減少していきました。人との関わりの中で他者への信頼が揺らぐような経験をすると、子どもの心の根幹も大きく揺さぶられ、自分の捉え方、他者と自分との繋がり、信頼感などに影響し、不安定さに繋がるのではと考えさせられました。子どもは自分の心の内や困りごとを直接言葉で伝えることは少ないかもしれないけれど、様々な背景が影響していることを学びました。

支援のあり方については、単発的に対応する場合は、その時に何う情報と要望のもと対応を行い、継続的に利用する児童の場合は、学習への促しはしつつも児童の心の安定に配慮し、本人の希望に沿った活動を行うことが主となりました。私自身としては「この児童にとっては何が必要とされているのか。どのような関わりが望ましく、何を、どこまで…？」など、距離感や関わり方、支援の範囲・内容などを探るような思いが常にあったのですが、今回は初めての取り組みであり短い期間でもあったため、とにかく関係性の構築と児童の心の安定に重きを置いた対応となりました。可能であるならば、その児童に関する情報と共に、関係している担任の先生、管理職や養護教諭、カウンセラーなど多くの方からの見立てや感じることをより多く伺うことができると、もしかするとより望ましい形が見いだせるかもしれないと思いました。

あとは、今回先生方にお伺いしたところ、完全に不登校になってしまった児童やそのご家庭との関わり・繋がりには難しさを感じていらっしゃることもわかりました。私はそのような子ども達やご家族に対しての思いがあるので、必要なときには何らかの形で繋がることができればと思います。

それぞれの支援員の皆さんとの時間の中でも本当に学びが多く、よい機会をいただいたと感謝しています。

【小学校担当】

養成講座など、さまざまな学びをしながらも、専門家ではない外部の立場で、学校の中に入るということに、学校も温かく迎えてくれ、学校と言う場が、地域にも開かれた、風通しの良いものになるためにも大切なものだと感じました。

自分自身も、自分の存在が、無意識にでも子どもを傷つけたりしないか、不安を持ちながら支援の実践を積む中で、子どもからの予期せぬ反応に、心の奥まで見られているような、試されているような気がしたり机上の学びではなく、子どもたちが、一人ひとり抱える背景、環境などがその言動や距離感などを通して直接感じ取れ、その場面ごとに自分もどうあればいいのか考えたり、自分に向き合う時間となりました。

②中学校(2021年10月～2022年3月)

実施体制:支援員4名で実施。研修会受講後支援員のお願いをさせていただいた3名他当団体理事1名

実施日時:毎週月・金曜日の9:00～16:00に各日支援員2名で対応。9:00～14:00に1名、11:00～16:00に1名というシフト制のような形。

実践日数:38日

関わった児童数:延べ187名

実践概要

*支援員は学校へ着くと別室へ行き利用する生徒と過ごす。この学校の場合利用する生徒は別室の利用申請をしている生徒たちで、登校した時には教室へは行かず別室へ来る。1日平均5名程度が利用しており、登校時間や下校時間、利用する頻度なども生徒によって違う。

*生徒によっては出ることが出来る授業に出席している。定期テストも教室で受けたり別室で受けたりしている。

*別室で過ごす時には多様なカードゲームや卓球、パズル、おしゃべり、読書、自学などを行っている。

*給食を別室で食べる生徒と一緒に支援員も給食を食べる。

*その日の終わりに関わった生徒や何をして過ごしたかななどを日誌に記入し教頭先生へ提出。

支援員の感想

【中学校担当】

講座で学んだと思っていても、実際現場に入ると、自分はどのようなのがよいのかと悩みました。テンポの速いゲームのルールについていくのに一生懸命で、ただ遊ぶだけになってしまい、それでよいのかと思うこともありました。

遊びや学校の課題、会話を重ねる中からいつか何かにつながるとよいという気持ちでしたが、もっと色々できたのではないかと思います。

それでも、生徒たちの意欲的な面や多くの可能性を見られたこともあり、嬉しかったです。滞在時間が延びたことやよい表情が増えたこともよかったと思いました。

【中学校担当】

中学校に週1お伺いしています。初日、生徒さんたちが少し緊張していたのが懐かしく、私自身もとても緊張した中で初日を迎えたことを覚えています。先日、生徒たちが「先生最初来た時、緊張していたよね笑」と当時のことを一緒に振り返ったりしました。

回数を重ねるにつれて、少しずつ生徒さんたちと打ち解けられるようになったように思います。支援の中で、生徒さんたちの好きな事や特技を知ることが出来たときはとても嬉しく感じ、一人一人のそういった部分を少しでも大切にできたらいいなと思っています。その中には生徒自身も気づいていないこともあると思うので、〇〇ができるのすごいね!〇〇が好きなんだね!と少しでも言葉にするようにしています。学校という生徒たちが安全な場所で、様々な立場の人と関わることによって、いろんな考え方や選択が自分にはあるのだと感じてもらえたら嬉しいなと思います。

たまに、生徒さんたちから愚痴を聞くこともあります。それは彼らが大人や社会に感じている違和感だなと思うことがあります。例えば、2学期の終わりに「3学期になったら頑張ってクラスに入ろう。」とか「新年になったら気持ちも新たに頑張ろうね」と言われたり…。「じゃあ大人は新年になったらつらいこともできるようになるの?」という矛盾です。そんな問いをもらうたびに、子どもたちと一緒に、いろんな方向から考えるきっかけにもなっています。

なにか大きなことが出来るわけではないですが、少しでも子どもたちのエンパワメントに繋がればいいなと思っています。

【中学校担当】

朝、別室に入ると、先生がいらっしゃるときは、子どもたちはピリツとし、先生が出ていくと、ふうっと力が抜けるような感じを受けた。先生がいることで、「勉強しなくては」というような意識が芽生えるようだ。しかし、クラスに行っていないので、内容が分からず、何をしたらいいのかわからずに結局、タブレット PC でタイピングゲームをすることが多かった。学業に関しては、プリントやドリルはもちろん、タブレット PC もあることだし、もう少し幅広い学びの選択肢があるといいかなと思うが、それぞれの子どもに合った課題を毎日用意するのは専門の先生が必要になってくるのかもしれない。テスト範囲の把握やタブレット PC の充電を十分にしておくことなど、最低限の確認は必要と思う。

朝起きるのが苦手、朝ご飯は食べたくないから食べない、夜は遅くまで起きて YouTube やゲームをしていた、などの話も聞いた。食べること寝ることは、健康や成長に必要なことなので、しっかり伝えて、今のうちに改善できるところはしてほしいと思う。

3年生の受験前に、面接の練習に付き合い思ったことは、「自己肯定感の低さ」である。教室に入れないことを「だめな自分」と感じているように思う。もともと学校というところは、積極性のある子が認められ、褒められる場面が多い。だが、社会の多くのグループは、積極性があるだけでは成り立たないことも多い。周りを見て、みんなが気持ちよく過ごせるように立ち回ったり発言したりする、そんないいところがあるよと伝えようと、ほっとしたような顔になった。

コミュニケーションは少々苦手なようだが、話していくと、家族のことや将来の夢について、またニュースになっていること、アニメや音楽のことなどさまざまな話をすることができた。子どもたちとの会話では、リアルな体験は少な目で、ネットからの情報が多いので、思考や発言に偏りがあるように感じていた。会話や勉強の見守りのほかに、ボードゲームをたくさんしたが、ボードゲームにもいくつかの種類があるので、必要に応じて取り入れることで、会話が増えたり、コミュニケーション力を鍛えることができると思う。表情などのアクション、スピード性、記憶力が必須なものは少し合わないと感じた。

これらのことから、子どもたちには、継続的な人との関わりが必要不可欠だと思う。とりわけおとなの見守りや励まし、双方向の会話があることで、少しずつリアルな経験を重ねることができ、自信をつけることができるのではないかと。今後、支援員がどの学校にも配置されて、いろいろなタイプのおとながこの事業に関われるようになるといいと思う。

また、不登校の支援について、保護者との連携が取れてないと感じました。支援員が直接やりとりするのは難しそうですが、別室でどんな風に過ごしているか、がんばっていること、ポロっとこぼした言葉など何らかの形で伝えてくれるといいなと。私は別室にきて過ごすこともがんばっていることで、ひとつひとつほめる(認める)ことだと思っているので、そういうことを学校や保護者と共有できたらいいと思います。

【小学校・中学校担当】

事業をはじめるにあたって、正直どこまでできるのかという不安が常にありました。助成申請段階で長崎市教育委員会の方と話ができて、そこから今回の事業のイメージを少しずつ作っていきましたが、それでも事業を行いながら常に「これでいいのか」「大丈夫なのか」という思いがありました。そのような中にも関わらず、一緒に活動できた支援員の皆さんから安心と心強さをいただき、また受け入れていただいた学校の先生方にも支えられ、続けることができたと思っています。

私の想定ではもう少し小規模な事業を計画していましたが、関わってくださった方々と話をする中でどんどん大きくなっていき、結局当初の想定を上回る実践日数・支援員の人数・事業費となってしまいました(自分が悪い)。

そのような様々な不安を抱えながらも、別室へ行くとその日に会えた児童・生徒はそれぞれに関わり合い、時に私を混ぜてくれ、少しずつ距離を縮めてくれました。事業としてうまくいったかどうかは判断できませんが、子ども

たちと会う機会になったことが一番嬉しかったです。

別室に入って一番感じたことは、来ている子どもは恐らく他者との関わりを求めているのではないかということでした。話す、聞く、遊ぶ、触れ合う、人の中に居る。そのような時間をどう保障できるか、そのことを考えながら一緒に過ごしていました。

時には一緒に過ごしている私の方が楽しくなってしまう、子どもたちを私に付き合わせてしまったと反省することもありました。別室は、学校は私の空間ではなく、子どもたちの空間であることを意識していましたが、それを忘れてしまう程楽しい時間が多かったです。

あっという間の半年でした。はじめは負けていた UNO も卓球も少しずつ勝てるようになり(卓球はまだあんまり勝てない)、バラバラだったパズルは組みあがり、導入当初は盛り上がったカードゲームも旬が過ぎ、タイピングの点数はどんどん伸び、分かれる時の無反応が手を振るようになり、「知らん」という返答が文章で返ってくるようになり、物理的な距離が縮まり、時間はかかったはずなのに、まるで 15 分で終わる人生ゲームのようにあっという間でした。

通常事業や私自身の活動ではこちらから離れるということはほぼなく、基本的にはむこうから離れていきます。それに慣れているせいか、こちらから離れざるを得ないことが寂しいです。

進学・進級していくそれぞれのこれからに、どうか良い日が多くあることを願っています。

5) 学校内別室への支援員派遣事業をふり返って

① 支援員派遣についての調査への回答結果(学校職員用)

1: 別室に支援員が入ることについて【回答数: 14名】		
① 必要だと感じた【11】	② 必要ないと感じた【0】	③ よくわからない【3】
選択した理由※一部抜粋して掲載しています。○の数字は質問1の回答番号		
【小学校】		
① 教室や他の教室へも入れない時など、一緒にいて頂き見守ってもらったので本人はもちろん、担任も安心して授業ができました。		
① 関わりを求めている子どもが多いので、話し相手になってもらい大変助かった。子どもたちの安全地帯になっている。		
① 支援員の方が来てくれるようになってから、教室で学習する回数が増えた。		
【中学校】		
① それぞれの生徒に、関わり合いつながりを持てる人(大人)がいることはとても貴重で大切だと感じるため。		
① 個別対応をするのにたくさんの人が関わる必要がある。		
① 別室に専念できる職員の増員はなく、職員の負担が多い中、ご協力いただけたのは大変助かりました。		
① 他の生徒と接することが苦手な子どもにとって、外部の人と一緒に活動できるのは貴重な経験になると思う。		
① 教師の負担減、及び教師以外に身近な人がいることで生徒自身が気軽に話ができる雰囲気づくりには良いかと。		
① 生徒がなかなか話せないことを支援員には話しやすい。教員の負担が少なくなり、他の業務ができる。		
① 居てくださったことで月・金の教員の負担が減りました。また、教員という立場の人以外の方が側に入ってくれたことで、より身近に感じ、楽しく過ごしていたように思います。		
③ 別室の対応がなかったから。		
③ 担当として関わりが少なく情報がなく、実態がよくわからなかった。		



2: 支援員の課題について(複数回答可)【回答数: 13名】			
①先生方との情報共有や連携【11】	②生徒への学習支援【5】	③教室復帰支援【6】	④その他【0】
選択した理由※一部抜粋して掲載しています。○の数字は質問2の回答番号 【小学校】 ①その子についてじっくり話し合ったり、どの様な様子で過ごしていたか連絡し合ったりできたらいいなと思いました。 ①作業日誌に気づきを書いてもらったことがとてもよかった。 ①情報共有の時間が十分でないため、サポーター（支援員）の方が困惑することがあった。			
【中学校】 ①少しでも、当該生徒が前向きに生活できるよう、情報共有と同ベクトル（同じ目標、支援の方向性…）が必要だと思います。 ①②情報の共有ができた時と難しかった時があったように思います。もっと密にできればと考えております。また、学習へ本人達がなかなか向かわないのもあるのですが、少しずつでも習慣が身についてくれればと願っています。 ①③職員と連絡をとり合って、子どもに対して共通理解を深める必要がある。 ①③教室に戻すことが正なのか、そうではないのか悩むところです。 ①②③こまかい支援や情報があると次へつながります。 ①②③生徒それぞれに状況が違う中、「別室の中」で、他に流されないよう、情報を共有し、教室復帰できる生徒を目指したい。 ②学校に来ることが第一ですが、ゲームやパズル等の時間が多いように感じました。 ③なかなかつつこめないところもあると思いますが、教室復帰支援をどうしていくかが課題といえば課題かと思っています。			
3: 支援員の派遣について思われたことをご自由にお書きください※一部抜粋して掲載しています。			
【小学校】 ☆だれか大人の人に見守っていただけるというのは、その子にとってはとても安心できることだと思います。また、担任や他の職員へは話しにくいことでも、話しやすい場合もあるようです。よろしければ来援ども来て頂きたいと思っています。 ☆不登校傾向の子どもが、教室へ入ることが確実に増えた。人間関係も良好になってきているので、是非来年度も本校に派遣していただきたい。 ☆教室での学習時間が増えたことは間違いないので、来年度も支援員を派遣してほしい。			
【中学校】 ☆いつも生徒との関わりを大切にしてくださり、ありがとうございます。 ☆とても良い取り組みであるが、連携が取れるようになれば有意義な取り組みになると思う。 ☆来年度もぜひ一緒に指導をしていただけるよう期待しております。 ☆いろいろと難しい面もあるかと思いますが、力を貸していただきありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。 ☆別室ですることの内容の計画など。 ☆子ども達にたくさんお声をかけ、関係を築いて頂き感謝しております。楽しそうに話をし、体を動かしている姿を見るにつけ、様々な立場の方に関わって頂くことの大切さを感じます。これからもよろしくお願い申し上げます。 ☆子どもたちもとても楽しくオンブズパーソンながさきの皆さんを慕っていました。たくさんのお関わりを持っていただけ、幸せだと思います。ありがとうございました。次はステップアップで教室との差が大きくなりすぎないようにお勉強もできたらよりいいのだと思いました。いつもありがとうございます。			

②支援員についてのアンケートへの回答結果（児童生徒用）

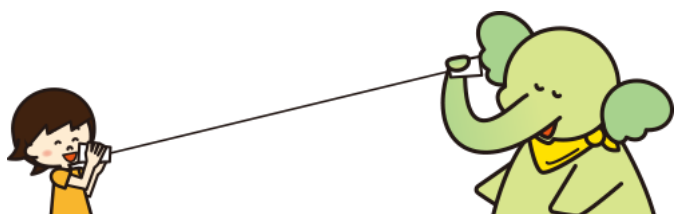
1:支援員が来ることについて【回答数:7名】				
①とてもよかった 【4】	②まあまあよかった 【2】	③よくなかった 【0】	④まったくよくなかった 【0】	⑤よくもわるくもなかった 【1】※独自に項目作成
2:支援員が来てよかったことや悪かったこと、感想などがあれば自由に書いてください 【回答数:6名】※一部抜粋して掲載しています。○の数字は質問1の回答番号				
①毛系を持ってきてくれたのが嬉しかった。【小学校】 ①不審者役をしてくれてありがとう。楽しかったです。【小学校】 ①最初トランプしたのが1番楽しかった。【小学校】 ①相談やノリにのってくれたりとても良かった。また来てほしい。【中学校】 ①いろんなことをしてもらいました。遊んだりパズルしたりして良かったです。【中学校】 ①どの先生（支援員）も優しかったから、また来てほしい。【中学校】 ②明るくなった。楽しかった。ありがとうございました。【中学校】 ②一緒にカードゲームをしたり、時には話し相手になってくれたりして、一緒にいて楽しかったと思います。これからも僕たちみたいな子のために頑張ってほしいです。【中学校】				

③取り組んで感じたこと

相談を待つのではなく、こちらから行くという経験

当団体の通常事業では、基本的に相談を待つことになります。例えば不登校であれば、「不登校になった後しばらくして」相談に来られることがほとんどです。そのようなケースの中には、もう少し早い段階で出会えていればと思うこともあります。当事業のようにこちらから学校へ出向く機会があることで、不登校だけでなく、様々な困りごとや悩みごとに早めに触れ、話を聞く機会につながることで、状況が複雑化することを予防することができると感じました。

また家庭によっては様々な状況から相談機関に行けない場合もあります。そのような場合、どれだけ相談を待っていてもつながることはありません。定期的に学校に出向くことはそのような課題に対しても効果があると感じました。



別室登校という形のある・なし

基本的に担任の先生が授業をする小学校と、教科ごとで担当が分かれている中学校では先生方の動ける時間も違ってきます。それだけでなく学校の規模など様々な状況の中で、すべての学校でいわゆる別室登校をサポートできる環境があるわけではないと思います。集団生活を基本としている学校において、個別対応を行うのはとても難しいように感じました。

そのような中当事業のような支援員の存在は、「教室に入れなくても安心して過ごせる空間がある学校」につながり、多様な背景の子どもたちがより通いやすくなると感じました。

職種、通常の活動等背景が多様な支援員の存在

今回支援員はそれぞれ別の仕事をしながら、またボランティアも含む様々な活動をしながら当事業に関わっていただきました。そのようなおとなと関わる機会が、安全が確保された学校の中にあることは、子どもたちの社会的自立に大きな意味を持つと思います。また、そのような機会が単発ではなく定期的にあるということも重要だと感じました。

複数人の支援員配置

当事業では基本的に1度の派遣を2人の支援員で行いました(全日ではない)。それにより別室の中で子ども同士の関係が少し悪化した場合に物理的に距離をとることや、1対1で話したいという思いをもっているような子どもへの対応が可能となりました。特に1対1の時間をとりやすくなるというのは重要で、集団の中ではなかなか聞けない話を聞く機会になりました。

NPOの人間が定期的に学校へ入ること

当団体の通常事業をはじめ、これまでの活動の中で、NPOの人間が定期的に学校へ入るということではできないと思い込んでいました。学校に入ることに敷居高く感じていたのが正直なところです。しかし当事業を通して、そんなことはなかったと思いました。長崎市教育委員会の方の「地域にひらかれた学校」という言葉にも背中を押され、私たちにもできることがあるのではないかと感じました。

④取り組んで感じた課題

学校との話す時間をもっと確保すべきだった

試験的な側面もあり、また初めての取り組みで手探りだったため、先生方にはご迷惑をおかけしたこともあると思います。

学校からの回答では「情報共有や連携」をもっと密に行いたいという意見が多くありました。その機会をどうつくるか、体制や環境設定の甘さが課題として見えました。

別室での関わりやどのように過ごしていたかなどを先生方に直接伝え、また先生方がどのような支援イメージを持たれているかを聞き、その上で実践することが必要だと思います。

支援員が入ることに対しては「必要だと感じた」という回答が多かったため、その点は事業の良い面を出せたと思います。

学習支援の難しさ

支援員は勉強を教えるためだけにいるわけではないですが、学校の中にある別室にとって学習は切っても切れないものだと感じました。学校からの回答でも学習にどうつなげていくかという点が上がっていたため、少しでも学習に向く時間をどのように作っていくか、課題だと感じました。

完全不登校になっている生徒と学校の架け橋になれないか

別室に支援員がいることで、別室の中での活動にも幅がでる感じました。その幅を活かし、完全不登校になっている子どもに別室の様子を伝え、「別室にちょっと来てみない？」と誘いかけることができないかと考えました。また学校配布のタブレットPCを利用し、家庭と別室をつなぐこともできるかもしれません。当事業では関わることはありませんでしたが、今後は別室へつなげていくということも課題だと感じました。

当団体の独自予算ではとてもできない

当事業は助成をいただけたからこそ実施できました。当団体の独自予算だけではとてもできず、予算面は今後の課題です。行政による事業化などが本線ではあると感じていますが、その他NPOなどの民間団体や地域の力などを使うことによって、その地域独自の事業が行える可能性もあるかもしれません。当事業の中でも実際に支援員が入る様子を見学に来られた機関がありました。当事業を様々な方に知っていただくことで、少しでも同様の事業が生まれてくると良いと思っています。

そもそも別室って何だろう？

当事業を実施する中で、あらためて芽生えた思いです。学校内別室を子どもは、先生は、保護者は、社会はどのように捉えているのでしょうか。それは同時に教室復帰をどう捉えるかということにもつながるように感じます。当事業を行う中で学校内別室にはまだまだ多くの可能性があると感じました。

Ⅳ 「不登校の子どもの学習機会確保に向けた調査事業」

1) 目的

長崎県内の不登校支援を行う民間施設等での学習機会確保の状況や教育委員会、学校との連携等を調査することを目的とした。

2) 内容

調査項目を作成し、長崎県内で不登校支援等を行う民間施設等を訪問させていただき、聞き取りによって現状や課題を調査した。当初の予定では 10 団体としていたが 5 団体しか実施できなかった。

3) 実施スケジュール

日にち	実施内容
4 月 20 日(火)	【全事業共通】長崎市教育委員会と事業について打ち合わせ
4 月 28 日(水)	【全事業共通】認定 NPO 法人アカツキ様とオンラインミーティング 0 回目:顔合わせメイン
6 月 23 日(水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 1 回目:事業全体の確認等
9 月中	調査依頼
11 月 16 日(火)	調査#1 個別指導 Axis 長崎県庁坂校/校責任者:佐々木 大 様(現地)
11 月 19 日(金)	調査#2 NPO 法人フリースクール クレイン・ハーバー/代表:中村 尊 様(現地)
12 月 8 日(水)	【全事業共通】広木克行さんとオンラインミーティング 3 回目:支援員派遣についての現状報告及び調査事業についての打ち合わせ
12 月 20 日(月)	調査#3 森の保健室 ヒュッゲ/小柳 順子 様(現地) 調査#4 NPO 法人 schoot(スクート)/代表 内海 博文 様(現地)
2022 年 2 月 4 日(金)	調査#5 みんなの居場所 GOKOU(ごこう)/小岱 海 様 他スタッフ 1 名様(オンライン)

4) 実施内容

実施については、9 月中に 10 団体程度に調査依頼を行い、その中でご協力頂けた 6 団体に調査を行った。6 団体のうち 1 団体は新型コロナウイルス感染症の影響により現地調査ができず、オンライン調査にも設備的に対応していなかったため、実施できなかった。調査項目を以下に記載し、その後 5 団体の調査結果を調査日順に掲載する。



調査日:2021 年 11 月 16 日

住所:〒850-0033 長崎県長崎市万才町3-15Fiorano2F

HP:<https://axis-kobetsu.jp/schools/id/669/>

1 運営形態について

1) 運営形態:学習塾(個別指導)

2) 運営開始時期:2017 年 3 月

3) 運営費の主財源:授業料

4) スタッフ:講師と業務委託契約を結び、指導をお願いしている(登録制)

不登校支援:本業の学習塾と不登校支援を切り離していることが最大の特長。一般会員への学習機会を提供する傍らで、ボランティアとして不登校支援を行う。不登校世帯に対して暫定的に自習機会を提供することはあるが、本格的に学習機会を利用する場合は一般会員として入会契約を結ぶ。



2 不登校や不登校気味の子どもの利用について

1) 利用対象:不登校の子どものみを対象としているわけではないが、不登校の子どもが入会している場合もある。これまでで不登校(気味も含む)の子どもとの関わりは約 10 名で、半数は塾の生徒。

2) 保護者からの不登校に関する相談体制の有無:会員からの紹介などで相談を受ける場合もあるが、塾事業とは別のいわゆるボランティアで行っているもので、その際に塾の勧誘等も行っていない

3) 利用に関して:調査日現在で約 40 名が利用。利用に関しては授業料が発生するため、保護者の同意が必要。

3 利用がある場合そういった子どもたちの学習について取り組まれていることについて

1) 学習プログラムの有無:有。塾事業内において実施。

2) 利用する子どもの学習を推奨しているかどうか:基本的に学習するスペースである。

4 学校への繋ぎについて

1) 学校との関わりについて:塾事業内において個別のケースで学校とやり取りすることは基本的には無い。しかし塾現場において様々見えてくるものもあるため、個人的なボランティアの範囲で学校との情報共有を行うことはある。

2) 学校との関わりについての課題等:特になし

5 支援を行う際に課題となっていること等について

1) 活動の中で感じる課題:学ぶことと生きる力が結びついていないのではと感じる。本当に自分らしい学びをしたいと思った子どもと長崎県のシステムが合っていないのかもしれない。不登校の子どもの中には学校に行かないことで命を守る、自分を守るというエスケープの意味合いを持つ場合が多いと思うが、その他にも学校に行く必要がないといういわば自分の意志で行かないことを選択する子どもも現れてきているように思う。

2) 利用する子どもの学習に関して感じる課題:特になし。全体的には学習に前向きで、学習に前向きでなかつ

た子どもでも、その理由を少し解消できると前向きになっていくこともある。その子その子に合わせたプランにすることもある。

3) 学力面で学校復帰にハードルを感じている子どもがいるかどうか: 学年による違いはあり、進学時に悩む場合がある。学校の勉強についていけなくなるかもしれないという子どももやり方がわかっていくと自分でやれるようになって(塾を)離れていく。不登校になる前の状態に戻る必要はないと思ってもらえるような日々の関わりを心がけている。

6 いわゆるヤングケアラーと呼ばれる子どもとの関わりについて

関わることはない

7 調査後の雑感(当団体による記入)

これまでに関わった不登校の子どもについて「勉強を放棄したり学習から逃げている子どもはいない。(不登校になる)以前すごく勉強していた子ども、人以上にしている子どもが多く、塾経験者も多いと感じる」と言われたことが印象に残りました。

不登校の子どもを対象としている場所ではありませんが、学習塾という性質も伴ってか、不登校気味を含む子どもの問い合わせがあっているように感じました。その点に関しては、一定責任者である佐々木さんのいわゆるボランティアベースでの活動等の影響もあるのだと思います。

また佐々木さんは、個別指導という性質上、利用している子どもたちがいわば「独立しているような状況で、他者の目が気にならない傾向がある」とも話しており、学校に行けていない状況でも周囲の目を気にしない形で利用ができるのではないかと思います。

不登校になっていなくても、学校に通いながら学習への不安を感じている子どもが利用することで、もしかすると結果的に不登校になる子どもを予防しているのかもしれないと感じました。



#2 NPO 法人フリースクール クレイン・ハーバー／代表:中村 尊 様

調査日:2021 年 11 月 19 日

住所:〒852-8145 長崎県長崎市昭和 3 丁目 387-1

開催日:毎週月～金曜日 10:00～17:00

HP:<https://craneharbor.info/>

1 運営形態について

1) 運営形態:NPO 法人

2) 運営開始時期:2004 年 3 月

3) 運営費の主財源:利用者からの月謝、寄付(利用者に限らない)

4) スタッフ:有償スタッフと無償スタッフがいる。資格の必要はないが、採用等に関する面談時に子ども観の共有ができるかどうかを重要視している。スタッフ研修の機会あり。



2 不登校や不登校気味の子ども利用について

- 1) **利用対象**: 不登校の子どもが対象(昼間、17 時まで)。その他ひとり親、共働き世帯など、ひとりで孤立しそうな子どもの居場所を 2 年前から夜間(17 時~21 時)に開催している。夜間に関しては不登校の子どものみが対象というわけではない。これまでの活動の中で、必要性を感じて実施している。
- 2) **保護者からの不登校に関する相談体制の有無**: 相談を受ける体制有り。
- 3) **利用に関して**: 調査日現在で昼間の利用者は 8 名。夜間 1 名。利用に関しては入会申し込みの必要があるため、保護者の同意が必要。ただし事前に入会申し込み不要の体験の制度もある(利用回数に決まりがある)。

3 利用がある場合そういった子どもたちの学習について取り組まれていることについて

- 1) **学習プログラムの有無**: 学習プログラムはないが、いるスタッフが勉強を教えるなど学習できる環境はある。
- 2) **利用する子どもの学習を推奨しているかどうか**: 特に推奨はしていない。子どもが必要とした場合に対応している。

4 学校への繋ぎについて

- 1) **学校との関わりについて**: 利用する子どもに関しては学校との関わりがある。学校側からフリースクールの方へ出向いてくれることもある。そのような場合に復学の話をするわけではない。長崎市が実施している不登校の子ども指導要録上の出席扱いに関するガイドラインの話はしている。基本的には保護者と相談しながら、教育委員会を通じて学校と話してもらうような感じが多い。学校からフリースクールで過ごしている時の様子等を知りたいという連絡が来るときもある。
- 2) **学校との関わりについての課題等**: 特になし。ここ数年教育委員会や学校においても、復学を強く推してくることはなく、不登校やフリースクールへの理解が進んでいると感じている。

5 支援を行う際に課題となっていること等について

- 1) **活動の中で感じる課題**: 経営面が課題。その他、親子間での考え方の違いを感じることもある。親は子どもにフリースクールのような場所に行ってほしいと思っても、子どもが出ることができないことがある。逆のパターンもあるのかもしれないが、そういう場合はそもそも親が相談に来ないので見えてはいない。出ることができない子どもには訪問(利用料が発生する)で対応している。スタッフが訪問し、距離を縮めながらフリースクールについて知ってもらえる機会を作っている。訪問に関しては子どもと会えないケースもある。
- 2) **利用する子どもの学習に関して感じる課題**: 特になし。家では学習しているようだが、フリースクールではしたらない。しかしそのことが課題となっているわけではなく、来て楽しく過ごしてくれている。学習をするためにフリースクールに来ているわけではなく、それ以外の目的を持って利用している子どもがほとんど。
- 3) **学力面で学校復帰にハードルを感じている子どもがいるかどうか**: 学力、勉強ができないから学校に行きづらいというような相談はあるが、利用している子どもにはあまりない。まずは外出する等をしながら元気になっていかないと、気持ちが勉強に向いていかないと思う。進学時に学力面がハードルになっている場合はあるかもしれない。学力によって進学先が狭まっていると感じることがある。利用している子どもの中には、塾へ通っている子どももいる。



6 いわゆるヤングケアラーと呼ばれる子どもとの関わりについて

きょうだいのお世話をしているというような話を聞いたりすることはあるが、ほとんどないと言える。

7 調査後の雑感(当団体による記入)

長崎県にある民間フリースクールとしては、17 年という長い期間活動をしている場所であり、歴史があります。フリースクール全国ネットワークという全国組織に参加していることもあり、他県の団体との繋がりや全国規模のイベントへの参加も活発で、フリースクールや不登校に関する情報も多く持っています。

日々の活動の中ではフリースクールでゆっくり過ごす以外に、子どもたちの希望に応じて外出の機会を作るなどのプログラムもあります。

また、不登校支援の他に学生服バンクに取り組むなど、フリースクール事業に留まらない様々な事業を行っています。

ただし、経営面に課題を感じるなど、フリースクール事業のみで運営を継続していくことの難しさもあると感じました。

#3 森の保健室 ヒュッゲ／小柳 順子 様

調査日:2021 年 12 月 20 日

住所:長崎県長崎市現川町 1912 うつつ川・森のぶんこう

開催日:毎週月曜日(祝祭日・学校休暇期間を除く)10:30~15:00

HP:<https://junkosoteta.wixsite.com/website>

1 運営形態について

1) 運営形態:「うつつ川・森のぶんこう」という地元自治会が運営委員会を作り管理している建物を使用し、毎週 1 回「森の保健室ヒュッゲ」を開催している。「森の保健室ヒュッゲ」に関しては、運営委員会の協力の元開催しており、小柳さんがその中心を担っている。

2) 運営開始時期:2020 年 5 月

3) 運営費の主財源:参加費収入(1 家族 1 回 100 円)

4) スタッフ:主に 2 名。「うつつ川・森のぶんこう」の運営・管理に携わるスタッフが協力。活動は主として小柳さん。その他、ヒュッゲを利用している人たちや活動の支援者、小柳さんのお子さんやその友人などが随時ボランティアとして手伝ってくれている。



2 不登校や不登校気味の子ども利用について

1) 利用対象:不登校(不登校気味含む)の子ども、学校が苦しい子どもなど子ども本人の他、保護者のみでの利用も可能。

2) 保護者からの不登校に関する相談体制の有無:保護者のみの相談を受ける体制有り。

3) 利用に関して:1 家族1回の利用に参加費(管理費)として 100 円頂いている。情報が無いなど本当に困っ

ている時に行ける場所として参加のハードルを下げるようにしている。基本的に保護者同伴。ヒュッゲがどういう場所かを保護者にも理解していただいた上での利用が理想的。

3 利用がある場合そういった子どもたちの学習について取り組まれていることについて

1) **学習プログラムの有無**: 無。ただし子ども本人の希望があればサポートできる環境・人材はある。利用している子どもを見ていると、勉強よりも人との繋がりや楽しい時間を求めている様子。自習できるスペースもあるので、自学することも可能。

2) **利用する子どもの学習を推奨しているかどうか**: 特に推奨をしているわけではないが、運営する中で時々ものづくりや楽器演奏などのイベントを開催し、利用する子どもたちの興味関心に繋がるような機会を作ること意識している。学習というより学び。これまで知らなかったことに触れ、知っていく喜びや世界を広げられるような機会を提供したい。

4 学校への繋ぎについて

1) **学校との関わりについて**: 利用している子どもの在籍校とは概ね繋がっている。近隣の学校からの案内でヒュッゲを訪れる家庭もある。長崎市が実施している不登校の子ども指導要録上の出席扱いに関するガイドラインに関しては、家庭の希望に合わせて実施している。長崎市教育委員会の担当者が訪れ、学校・市教委・ヒュッゲの3者で利用について協議したこともある。

2) **学校との関わりについての課題等**: 学校との関わりの難しさとして、学校とはどのような形で連携するのが望ましいのか模索している。子どもたちの思いや状況は個々に異なるし、タイミングによっても変わってくるのでひとくくりでは考えられないが、学校等他との関わりが薄いご家庭などの場合、繋がっているものとして、何かできることや必要なことはないかと考えることがある。

出席扱いになっている在籍校とのやり取りは学校によりまちまちで、ほとんど連絡がない場合もある。伝達方法はあらかじめ決められていても、継続されていない状況もある。また、利用している子どもがいる、いないに関わらず、地域の学校の様子を知りたいと思うこともあり、どのように動くことができるのか考えている。

5 支援を行う際に課題となっていること等について

1) **活動の中で感じる課題**: 不登校で悩むご家庭、ヒュッゲのような場を必要とされている方々に情報を届ける方法。ほぼボランティアで行っているため、継続するためには時間や労力、精神的な負荷をかけすぎないようにする必要も感じる。周知のために多くの時間を割けないが、「ヒュッゲがあってよかった」とおっしゃってくれている利用者さんを見ると、もう少し何かしなければとの思いにもなる。

子ども同士、親同士、または斜めの関係で、緩やかに関わり合うことがヒュッゲのよさであると感じているが、参加者やサポーターが少ない場合に、子ども本人と親御さんの両者に対応することが難しい。子どもと一緒に過ごすこともあるが、保護者と話す時間も多く、その時間の重要性を感じている。話すことで保護者の安定に繋がることもあると感じる。相談を受けるというスタンスではなく、ピアサポートの意識。誰にとっても居場所、居心地の良さを感じてほしい。

2) **利用する子どもの学習に関して感じる課題**: 進路の話や学習支援等もっとしてあげたいと思うこともある。学習不足を子ども本人が意識している時になかなかサポートに繋がられていないと感じる。こちらから声をかけるがなかなか実行に繋がらない。勉強ができない自分という姿に子ども自身抵抗があるのかもしれない。

3) **学力面で学校復帰にハードルを感じている子どもがいるかどうか**: 勉



強がわからない→できない→自信がない→ハードルになる、ということはあるかもしれない。できていない自分を自分自身が認めることは難しいと思う。そのような現状を開けるサポートを模索している。

ただ最近、あれもこれも湧いてくる、そのすべてへの対応を考えるよりも、この場所だからできることや得意とすること、ここの役割というものをむしろ大切にすべきで、必要なときには他団体と協力したり委ねたりしながら、全体として子どもたちをサポートできればよいのだと思うようになった。

6 いわゆるヤングケアラーと呼ばれる子どもとの関わりについて

利用者のほとんどが保護者と一緒に来るのが基本なので、そういう背景の子どもとの関わりは少ない。

7 調査後の雑感(当団体による記入)

小柳さんは「“場”の持つすごさはあると思う。来る参加者ひとりひとりの力がそれぞれの楽しさの源となって成立していると思う」と話されており、運営者・利用者という関係ではなく、親も子もみなそれぞれが当事者として参加し、居場所として成り立っているように見えました。

また、建物がとても素敵だと感じました。光のたくさん入る広いスペース、本に囲まれた個室、運動場など、子どもたちにとっても楽しいがたくさん生まれやすい環境だと思いました。様々なイベントもいわゆる学習ではなく、興味関心に焦点を合わせ、知らないことを知っていく喜びの創出の機会となるよう意識されていて、家の中だけではできない体験も多くあると感じました。

その一方でそのような機会を経ながら、実際の学習にどのように結び付けていくのかという部分では課題を感じていると話されており、居場所運営の難しさを感じました。



#4 NPO 法人 schoot(スクート)／代表 内海 博文 様

調査日:2021 年 12 月 20 日

住所:〒856-0807 長崎県大村市宮小路 2 丁目 538 番地 1

開校日時:火曜日～金曜日 10:30～15:00

HP:<https://npo-schoot.jimdofree.com/>

1 運営形態について

- 1) 運営形態:NPO 法人
- 2) 運営開始時期:2019 年 4 月
- 3) 運営費の主財源:月会費による収入(月額 15000 円(税込み))
- 4) スタッフ:NPO 法人の正会員がスタッフ(有給)で、教員免許、児童支援員等の資格を有している。

2 不登校や不登校気味の子どもとの利用について

- 1) 利用対象:不登校の小・中学生。高校生の相談も受けるが、同建物内の「おおむら学習センター」で対応することも多い。「おおむら学習センター」は「単位制」「通信制」で学習することができる通信制の高等学校のサポート校。入校していなくても相談できる。
- 2) 保護者からの不登校に関する相談体制の有無:保護者のみの相談を受ける体制有り。
- 3) 利用に関して:入会申込書の提出と月額料金が発生するため、保護者の同意は必要。schoot に滞在する、

ここで勉強する、となると入会が必要になる。ただ、フリースクールだからみんなが来れるというわけではない。子ども自身がなかなか来れないという場合でも、その家庭との関係が切れないようにすることは大切だと考え、利用チケットを購入してもらい、来たときにチケットで払うという「チケット制」も、子どもの様子や家庭の状況をみながら実施している。

3 利用がある場合そういった子どもたちの学習について取り組まれていることについて

1) 学習プログラムの有無: 有。学年や個人の習得状況に応じた対応をしている。中学1・2年生は国語・数学・英語の時間を設けている。中学3年生は、進学に応じた5教科の学習をするチャンスがある。しかしながら、「勉強」の強要はせず、本人と話し合いながら各教科のプログラムを決めている。小学生は、今のところ本人が望ま



ない限り、学習の時間は設けていない。また、「おおむら学習センター」が設けている「プロジェクト授業（美術・料理・ヨガ・書道・音楽）」に、希望すれば高校生と一緒に参加することが可能。

2) 利用する子どもの学習を推奨しているかどうか: 推奨しているが、子どもがスタッフや子ども同士と関係ができていくか、楽しんで過ごしているかという部分が大前提としてある。school に来たいと思える経験が必要だと思うので、楽しんでくれることと関係づくりを大切にしている。

4 学校への繋ぎについて

1) 学校との関わりについて: 2021 年度から school が「出席扱い」可能となる施設として 大村市教育委員会に認めて頂いた。そのこともあって、学校とは緊密に連絡をとりながら連携している。具体的には基本的にこちらから学校に毎日連絡を入れ、大まかな状況を毎月報告している。学校と話す機会が多くとれるのは良いことだと考えており、背景には大村市教育委員会との関わりも大きい。「出席扱い」に関しては、小学生より中学生の保護者の希望が多い。

2) 学校との関わりについての課題等: 話す機会が多いことは良いが、もう少し日々の連絡が教員や私たちの、互いの負担にならないようにできないか考えている。「出席扱い」については、それがすべてではないと考えているが、保護者が気にする傾向があると思う。「出席扱い」となることで子どもと繋がれる可能性になるので、良い面は多いと考えている。

5 支援を行う際に課題となっていること等について

1) 活動の中で感じる課題: それぞれの子どもの状態に応じた個別の支援の難しさを感じる。学習面での個別の支援の難しさも課題かもしれないが、そこに関しては解消すべきなのかわからない。それらの背景にはスタッフの不足も理由のひとつかもしれない。保護者や学校から学習面の要求が強くなる時もあり、学習もできるが居場所としての部分を前提にしているので、バランスが難しい。保護者や学校へは丁寧に説明しながら理解を得られるようにしている。

2) 利用する子どもの学習に関して感じる課題: 学習が遅れていたりするので意欲が低下している傾向がある一方、学習の機会については熱心に参加するなど積極的な側面もある。ただし学習プリントになるとやる気のスイッチが切り替わる場合もあり、難しい。学力のベースが子どもそれぞれで違うので、何を教材として提示するか、

次のステップにどうつなげるかなどが難しい。学習機会に関しても、スケジュールの中に多くあるわけではないので、積み上げが難しい。今後に向けて、現在各学校で配布されているタブレットを使用している調べ学習などがないか検討している。

3) 学力面で学校復帰にハードルを感じている子どもがいるかどうか: 学力が追いついて戻れるケースはあった。追いついたことが自信になったのだと思う。ただ、学力面のみが復学のハードルになっているとはあまり感じない。学校に戻りにくいのは、その他の理由によるものだと思う。中には定期テストに抵抗を示す子どももあり、テストを見て学力が低いという現実を見るのがつらいと感じているのではないかと考えている。

6 いわゆるヤングケアラーと呼ばれる子どもとの関わりについて

関わる機会はあると聞かない。

7 調査後の雑感(当団体による記入)

schoot 単体だけでなく、「おおむら学習センター」と連携しながら活動することで、主に学習面でのサポートにはかなり厚みがあると感じました。施設環境やスタッフの存在などが充実しているように見え、さらに今年度から「出席扱い」が可能となる施設に認定されたことで、より多くの不登校の子どもや家庭のニーズに応えられる団体だと感じました。

前記したように学習面や学習環境に目が行きますが、単に学習ということだけではなく、その土台に居場所としての場、schoot に来たいと思ってもらえるような楽しめる機会や関係づくりを大切にしているからこそ、学習に繋げることができるのだと思います。

一方で小・中・高校生が混在する施設の中で、また限られたスタッフの人数での個別の支援の難しさを話されており、異年齢での集団の良い側面と難しい側面があるのだと感じました。

個人的に良いと感じたのは、不登校の小・中学生が、「おおむら学習センター」で通信制高校に通っている高校生を見たり触れ合ったりする機会があるということです。不登校の相談を受ける中で、子どもや親が「通信制高校」を口にするのは多いのですが、実際に通っている人を見れるという機会はあまりないので、その機会が自然に発生するというのは特徴のひとつだと思いました。



#5 みんなの居場所 GOKOU(ごこう) / 小岱 海 様・佐伯 瑞葵 様

調査日: 2022年2月4日(ZOOMにて実施)

住所: 長崎県長崎市矢上町41-7 教宗寺門徒会館

利用時間: 8時半~22時 ※利用時間は変更になる場合あり

Instagram: <https://www.instagram.com/gokou.18/?hl=ja>

1 運営形態について

1) 運営形態: 任意団体。長崎市が主催する「ながさき若者会議」のメンバー6名(調査日時点)で“居場所づくりプロジェクト”として取り組んでいる。※ながさき若者会議: 長崎の若者が集い、新しい仲間を作りながら自

分たちが暮らす未来を面白くするためのアクション(はじめの一步)を起こしていく会議体です。(HP:
<https://nagasaki-wakamonokaigi.com/>より)

2) 運営開始時期:2021 年 5 月

3) 運営費の主財源:賽銭箱を置いており、利用した人それぞれが出せる金額を入れてもらうようにしている。目安は 1 日 100 円。お寺の別棟にある建物で開催しており、お寺が用事で使っていない時に実施しており、基本的に場所代がかからない。何かを購入するなど GOKOU で必要なものがある場合には予算づくりの段階からメンバーで話し合う。

4) スタッフ:高校生から社会人までの 6 名。全員ボランティア。GOKOU にはスタッフが常駐しているわけではなく、利用できる日に利用者が鍵を借りに来て利用している。イベント企画や居場所の可能性を探るなど、GOKOU の運営に関する様々を話し合うのがスタッフの役割。

2 不登校や不登校気味の子どもたちの利用について

1) 利用対象:地域の学生(中高生)がメインの対象。おとなは居場所を探しやすいが、学生は難しいのではと考え、学生の居場所づくりとして行っている。不登校や家に居づらい子どもにも利用してほしいが、その部分を大きく打ち出すと「あそこに行っている子は…」という目で見られるかもしれないと考え、対象を広くしている。

2) 保護者からの不登校に関する相談体制の有無:相談を受けた場合には専門の機関や、繋がりが合う場所につなげたい。利用している子どもに

関しては、相談というよりおしゃべりしている感じ。相談できるということを打ち出しているわけではない。

3) 利用に関して:初めて利用する時に申込用紙に記入してもらい登録。申込用紙には、住所、氏名、電話番号、保護者の連絡先を記入してもらう。また“ゴミは持って帰る”等の注意事項の書かれた紙を渡し利用について説明する。申込用紙を記入するだけなので保護者の同意が必要なわけではない。登録人数は 30 名程度でその内不登校傾向の子どもは 1~2 名程度(調査日時点)。



3 利用がある場合そういった子どもたちの学習について取り組まれていることについて

1) 学習プログラムの有無:無。利用している子どもの多くは放課後などに勉強しに来ており、子ども同士で教え合ったりしている。

2) 利用する子どもの学習を推奨しているかどうか:学習のみをする場所ではなく、来た子どもたちが好きなように、自由に使える場所で、テスト終わりに“お疲れ様会”をしている姿もあった。

4 学校への繋ぎについて

1) 学校との関わりについて:地域包括支援センターとの繋がりはあるが、学校とはまだない。

2) 学校との関わりについての課題等:仮に学校と関わる場合、どのような立ち位置がいいのか迷っている。繋がりを持ちたいが、スタッフは全員ボランティアであり、その辺りのバランスを考えたい。地域の学校に認知していただき、多様な子どもたちの選択肢のひとつになりたいという理想はある。

5 支援を行う際に課題となっていること等について

1) 活動の中で感じる課題:特定のスタッフに負担が集中している。居場所とスタッフの居住地域の物理的な距

離もその要因のひとつだと思う。

2) 利用する子どもの学習に関して感じる課題: とくになし。

3) 学力面で学校復帰にハードルを感じている子どもがいるかどうか: 友達など他の子からフォローしてもらっている場合もあるが、勉強が遅れてますます学校に行きづらくなると聞けることがある。

6 いわゆるヤングケアラーと呼ばれる子どもとの関わりについて

今のところはない。

7 調査後の雑感(当団体による記入)

不登校の子どものみを対象とするいわゆるフリースクールのような場所ではなく、地域の子どもたちが自由に使える物理的なスペースという印象を持ちました。不登校かどうかに関わらず、地域にこのような場所が存在することは、子どもたちにとっては安心感につながると思います。

地域の公民館や図書館などの公共施設は無料で利用できる場合が多く子どもたちの居場所になるでしょうが、GOKOU に関してはそこから更に一歩踏み込んだ“私たちの居場所”として認知されていくような気がします。それは運営者と利用者との明確に区分される関係ではなく、運営者と利用者が一緒になって場所を作り上げていくことにつながります。

子どもたちにとってその居場所を守り、またその場所で心地よく過ごすためにどうすることが良いのか考えながら利用する機会になり、そのような経験は地域やそこで過ごす人たちとの良い関わりを学ぶことができると感じました。

5) 不登校の子どもの学習機会確保に向けた調査事業をふり返って

● 多様な運営形態、対象の団体にご協力いただけた

調査数は少なかったが、NPO 法人、学習塾、地域の運営委員会や長崎市の事業の中から生まれた活動など、少数ながら多様な団体に話を聞いた。スタッフに関しても、仕事として、ボランティアでなど様々で、対象も不登校の子ども(不登校気味を含む)や家庭のみならず、地域の学生の居場所でもあるなど様々だった。

● 学校との関わりについて

不登校や民間の居場所に対する理解が進んでいるという回答があり、ここ数年で連携しやすい環境ができていると感じた。一方個々の学校との関わりについては、各団体の運営形態やスタッフの立ち位置など様々な状況から、子ども・家庭・学校・団体それぞれにとって負担にならない連携のあり方を今後も模索していく必要があると感じた。

● 学習環境について

学習プログラムの有無に関わらず、子どもが望めば対応できるという回答があった。しかし利用する子どもが“いわゆる学習”を主目的として利用していないという実感があるように感じ、その点は別室支援事業との関連を感じた。そのような状況の中各団体は学習の型に縛られず、来ること自体を楽しめるようになることや、子どもたちの興味関心に繋がるような機会を作ることなど、独自の活動を作っていた。まずは来て、その場所で安心して楽しく過ごせることを第一義的に考えているそのような取り組みは、学校内別室での支援に通ずるものがある。

さらに各団体利用する子どもの学習の推奨をしている、していないに関わらず、子どもが望めば対応できる環境を整えている点は共通していた。





NPO 法人 子どもの権利オンブズパーソンながさき
不登校児童生徒の学習機会確保及び学校内別室への支援員派遣事業報告書
2022 年 3 月発行

編集・発行／NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき
(代表理事 古豊慶彦)

【法人所在地】

〒850-0057 長崎県長崎市大黒町 4-26-302 (NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会内)

TEL:095-825-0533／FAX:095-825-6151

ホームページ:<http://komb-nagasaki.sakura.ne.jp/>

メールアドレス:komb.nagasaki@gmail.com

【相談窓口所在地】

〒850-0901 長崎市本石灰町 6-1-4F

相談専用電話:080-3187-9156

相談時間:水曜日 11 時～19 時 木曜日 18 時～21 時 土曜日 14 時～18 時

※上記時間のみ相談電話がつながります

※祝祭日、年末年始などをのぞきます



ホームページ QR コード